

キャプテンストライダム



[L-R]
Ba./Cho. 梅田啓介
Dr./Cho. 菊住守代司
Vo./G. 永友聖也

キャプテンストライダムはとて不器用で、真面目で、音楽に対して誠実なバンドである。1st アルバム『ブッコロリー』（2003年11月）の頃は、ややマニアックでシュールな自分の世界観を世に出して反応を楽しんでいたが、メジャーフィールドに活動のステージを移してからは、とにかく“自分たちには何が出来るのか？”と真剣に考え、持てる力を全部使って、常に限界まで挑戦し続けてきた。2nd アルバム『108DREAMS』（2006年2月）では自分たちが考え得る120%のポップミュージックを作り上げた。3rd アルバム『BAN BAN BAN』（2007年3月）ではライブと音源とのギャップを出来る限り埋めようと突き詰めた。そして6/25にリリースした4th アルバム『音楽には希望がある』では…。今回は最新アルバム『音楽には希望がある』に行きつくまでに、彼らが何を考えて何を探してきたのか？を探るインタビューである。（※メンバーの本気度が高かったため、いつものような註釈はありません）

- 6/25にアルバム『音楽には希望がある』をリリースしましたが、今作の制作はいつからのタイミングから始まっているんですか？
永友：最初の始まりという、渋谷（2007/3/9ワンマンライブ「BIG BAN」@渋谷C.C.Lemonホール）が終わった後、1回出し尽くしたという。自分の中で1回燃え尽きた感じがあったんですよ。
- はい。

永友：それで、やっぱりそんな状態でも曲は作っていかなくちゃいけないので作り始めてたんです。でも、今まではそういう時に曲を作ろうとしてもなかなか出来なかったのに、その時はなんとなく出来ちゃったんです。それが良ければいいんですけど、自分の中で“燃え尽きてるのに曲が出来るといことは、ひょっとしてテクニックで書いたりするようになってるんじゃないか？”と思って。

●なるほど。
永友：プロとしてはコンスタントに曲を作っていくことも大事なこと、キャプテンストライダムとして演奏していく上では、何が表現したいかが自分にも全然見えていないのに曲が出来るといのはちょっとマズいかな。その時に作った曲は2人に聴かせた曲もあるし、聴かせずに自分の中でボツに

した曲もあるんですけど、とにかく全部ボツにしちゃったんです。プロとしてはどうなのかは分からないけど、とにかくバンドとしてどうやって曲を作っていくか、自分の方を向いていくか、自分がダメになっちゃうという感じがしたんです。世間が持っている自分たちのイメージも、アルバムを3枚作ってきた中でなんとなくあるだろうし、そこに向かっていい感じで作っていくと、バンドとしては本当の意味で終わらなくなっちゃうと思ったから。それで作り方を考えようということになって、僕の家に3人で集まってたんです。音楽をこれから10年〜20年と作り続けたいと思って、自分の生活を今まで以上に楽しいモノに変えられるアルバムにしたかったんです。

●アルバム制作の過程で、バンドとしての方向性が見えませんでしたね。
永友：そうですね。もちろん現在もその過程だと思いますけど、きつと去年のタイミングは“これからどうやって音楽と向き合っていくか”を考えるとターニングポイントだったんです。

●アルバムに対するアプローチが今までとは違ったのかもしれないですね。
永友：うん。今までは“ポップなことをやろう”とか“ライブ感にこだわって作るよ”みたいなアルバムのテーマがあったんですけど、でも今回はバンドとしてのテーマを考えたタイミングだったので、結構純粋に“音楽と向き合う”みたいな感じになっていったんです。サウンド的にとか、コンセプトとかはあまり考えてなかったです。

●うん。今作を聴いて、そういう部分は重要ではないと感じました。

音楽には希望があると信じて邁進するキャプストには希望がある

らの永友家宿？

永友：そうですね。そこにいるんなことを話したり、曲を作ったりまわったり、いかなかったり…そういうことを3人同じ時間の中でやっていくんです。梅田：作業を結構楽しんで出来たのも大きかったですね。
永友：結構ハードだったんですけど、家で曲作って「終電前には帰ろう」とは言いつつ、始発になることもあったし。そのまま翌日の仕事だったりリハーサルだったり、また集まって曲を作ったりもあってたんですけど、それがあまりしんどいという感じじゃなかったんです。菊住：時間的なキツさとかはそれぞれあるし、もちろんボツになったネタなんかなくてもあって。でも3人が1つのイメージを共有して曲が出来ていく時なんか、すごくエキサイティングな感じですからね。
永友：そうですね。無駄なことをやってるのがもったいない”っていう感じになってくるので、すごく音楽と純粋に向き合えるんです。●“無駄なこと”と言うと？
永友：自分ひとりで作ってる時は自分の中のOKラインですけど、3人でやっていくとバンドでのOKラインだから基準が全然違ったりするんですね。“バンドで音楽を作るってこういうことなんだ”ということを実感して。そうこうしているうちに、“じゃあ、なんで音楽で表現したいと思ったんだろう？”みたいな、すごく本質的なことを考えたり。

●その自問にはどういった答えが出たんですか？
永友：永友：やっぱり単純ですけど“楽しいからなんじゃないか”と。「人間ナニモノ！」は“怒り”とか“絶望”みたいな感情が出发点で曲が出来てるんです。でもそれを音楽で表現したいということは、“怒り”や“絶望”をポジティブなものに変えたいということなんだって。バンドというのはその為のシステムというか、装置というか。“音楽はそのためにあるんじゃないか”と思ったんです。●今作のタイトルに繋がりますね。
永友：それがテーマになっていったんですけど、歌詞についても、言葉遊びとか、自分の中で思っていることやシュールなことを書くんじゃなくて、今暮らしている中で感じたこととか実感したこと、経験したこととをテーマにして、日々の生活を今まで以上に楽しいモノに変えられるアルバムにしたかったんです。

●アルバム制作の過程で、バンドとしての方向性が見えませんでしたね。
永友：そうですね。もちろん現在もその過程だと思いますけど、きつと去年のタイミングは“これからどうやって音楽と向き合っていくか”を考えるとターニングポイントだったんです。

●アルバムに対するアプローチが今までとは違ったのかもしれないですね。
永友：うん。今までは“ポップなことをやろう”とか“ライブ感にこだわって作るよ”みたいなアルバムのテーマがあったんですけど、でも今回はバンドとしてのテーマを考えたタイミングだったので、結構純粋に“音楽と向き合う”みたいな感じになっていったんです。サウンド的にとか、コンセプトとかはあまり考えてなかったです。

●うん。今作を聴いて、そういう部分は重要ではないと感じました。

永友：そうですね。やっぱりそこは重要じゃなかったんです。●例えばさっきの「人間ナニモノ！」の話で、出発点は“怒り”や“絶望”かもしれないですけど、それを音楽で表現したら…要は“キャプテンストライダムというバンドから離れてリスナーに届いた時には、ポジティブな力に変わるような音楽を作りたい”と思ったわけですか？でも実際に音楽として落とし込む過程で、単純に“怒り”や“絶望”をそのままぶちまけるだけではそれはならないと思うんです。
永友：そうですね。方法論的にはまた違う話です。でもそこで、本当に奇跡的なタイミングで Steve Jordan のプロデュースの話が出て。●あ、そういうことか。
永友：正直な話、僕は海外レコーディングとか全然興味が無かったんですけど。日本で日本語の歌を聴いて育ってるし、日本人に向けて日本語で歌ってるから、日本で録った方がいいと思ってたんです。でも Steve Jordan がこのタイミングで“プロデュースをやってみよう”と言ってくれて“ちょっと今までの違う視点で音楽をやれるかも”みたいな。

●はい。
永友：僕らが Steve Jordan のファンだったということもあってたんですけど（笑）、それで行こうと思ってる。結果的にすごくよかったんです。特に僕はいろいろ頭で考えるタイプなんですけど、“どうやって落とし込もう”とか考える以前に、実際に初めて会う Steve だったり、エンジニアの nico だったり、国や文化も世代も違う人たちと一緒にいい演奏が出来たって、1発でみんな笑顔になるんですね。それは純粋に音楽的なポイントで。演奏してて分かり合ったり、言葉は通じなくても歌のニュアンスで伝わるんだということ、すごく集中しながら体感出来たんです。NYレコーディングはそういう意味ですごくいいタイミングだった。

●なるほど。NYに行く前に考えていたことを、NYレコーディングで実践出来たんですね。
永友：そうですね。NYレコーディングに行く前は不安だらけだったんですけど、実際に向こうで一緒に演奏するとすぐ分かり合えたりするんですよ。音楽をやっていく上ではそういうことの方が大事なんだって。むしろ音楽の力ってそういうところにあるんだって。最初は戸惑いとかもあったけど、いざセッションが始まって1回火が点いちゃったらもう止まらない感じで。制作に入ったら後は楽しんでたっていうか。

●言うことはよくわかるんですけど、それを言葉で説明するのはすごく難しいと思うんです。例えばライブを聴いて、いいライブと悪いライブで結構説明がつかない時とかあるじゃないですか。それに近い感覚なのかな。
永友：すごく感覚的なんですけど“その人の全部を使ってるかどうか”なのかなと思うんです。テクニックで感動することもあるんですけど、演奏が下手でも感動することもあるじゃないですか。それは何なんだろうなと思うんですけど。去年 Larry Carlton を観に行って、すごいテクニックでめちゃくちゃ感動したんですけど。ただで Ramones を観てもなんか感動しちゃうんですね。“それって何

なんだろうな？”って思うんですけど、きつと“音楽で分かり合う”ということと近いのかなと思うんですけどね。

●要するにツールや方法は何でもよくて、その人が燃えているかどうか重要というか。
永友：そうですね。そう考えると、やっぱりキャプテンストライダムはキャプテンストライダムの表現をすることでしか分かり合えないんです。僕らがフュージョンやパンクをいかに上手に演ったところで届かないんです。“キャプテンストライダムとしてどういう演奏をするか”とか、“どういう歌を歌うか”っていうことで分かり合っていたような気がします。NY に行って Steve Jordan と会ったときも、洋楽っぽい演奏をしようとか全然思ってなかった。

●「人間ナニモノ！」で歌っているように、「キャプテンストライダムは何者なんだ？」という問いに向き合ったんでしょうね。
永友：永友：きつとそうなんです。もう向き合わざるを得ない状況でしたから（笑）。●今作は徐々にキャプストらしいアルバムになったと思っただけです。言い方は悪いんですけど、全2作のアルバムは今から考えればどこか無理があったと感じるんです。もちろんキャプストの延長線上なんですけど、その時の自分たちが持っていた場所に行こうとしていたのでしょうか。2nd アルバム『108DREAMS』（2006年2月）では自分たちが考え得る120%のポップミュージックを追求して、3rd アルバム『BAN BAN BAN』（2007年3月）では作品でライブ感を出すことを追求した。でも今作は“キャプテンストライダムであることを追求した”という感じがすごくするんです。
永友：話に戻りますが、自分たちは何者か？”というところから曲作りをスタートしていたので、自然にサウンド的なことばかりも、音楽自体に向き合ったという感じなんです。別に疎かにしていたわけじゃないんですけど、サウンド的には曲に最も相応しい音になっていけばいいという程度というかな。なので、「キャプストらしいアルバムになった」とおっしゃいましたけど、自分でもそう思います。

●以前のインタビューで「人間ナニモノ！」について「歌詞はほとんど考えずに、出てきたままを書いた」とおっしゃっていましたが、アルバムの他の曲もそういう感じが多かったんですか？
永友：そうですね。例えば“愛してるのさ”みたいな言葉があって、それをラブソングにして歌う時って“言葉として”とか“好きだ”みたいな直接的な言葉を使わずして、そういう気持ちをいかに表現するか”みたいなことを無意識に考えてたりするんですよ。でもそれは自己満足なところもあるかなと思って。“じゃあ「愛してる」ということを「愛してる」と歌ったらどういう歌になるんだろう？”っていうところで「愛の言葉」(M-12)の歌詞は出発してるんです。

●直接的になったというか。
永友：そうですね。日本語で歌ってる強みというかな。“伝わるスピードが早い言葉って何だろう？”と考えながら書いていくんですけど、それが面白いんですよ。

●永友さんの歴史からすると、今作は作詞のアプローチが大きく変わったんでしょうか？
永友：うん。今まででいちばん大きく変わりました

ね。

●「人間ニモノ!?」のインタビューで「売れるかどうかは気にせず作った」という発言がありました。が、今作についてはどう考えていたんですか？

菊住：もちろん「売りたい」とははずっと思うんですけど、特に今回は“こういうアプローチをすると上手くハマるだろうな”みたいな計算はしなかったというが、最初の「ビビ!!」ときた感覚に忠実であろうとしたんです。

●はい。

菊住：そこがたまに分からなくなっちゃう時もあるんです。でも今のキャプストにとって（その感覚を失うことは）相当バイバイことで、だからその感覚に対して自分がどこまで忠実になれるかっていう。もちろんみんなでその感覚を共有しないとイケないので、その摺り合わせというが、結構話し合ったりすることも多かったんです。

永友：すごく売れたいと思うし、いい曲だと思って作ってるわけだから、その曲でいろんな人が繋がったりする方が当然いいです。できるだけたくさんの人に聴いてもらう方がいいですけど、でも作っている時は、少なくとも僕ら3人が最初に盛り上げて「これいいね!」ってなれたものしか先には拡がっていかないんです。

●はい。

永友：だからやっぱりなんだかんだ言って大事なものは、最初どれだけ盛り上がったか。1人から3人になったことによって、いろいろ厳選していくと思うから。やっぱり自分たちがグッと感じるの大事ですね。まあね、売れようと思って売れるなら、もうとっくに売れてますよ（笑）。苦労しないです。

●そりやそうすね（笑）。

永友：前に桑田佳祐さんがインタビューで「よく売れ線って言われるけど、売れ線というモノがあったら教えてほしい!」って言ってたぐらいです。

●桑田さんが…（笑）。

永友：ということは売れ線なんてきつと無いってことですね。いろんな偶然もあるだろうし、だったら自分の信じるモノを誠実にやろうと思えました。そういう感覚がすごく外に向いてるという意味で、このアルバムが今までといちばん大きく変わったところなんです。自分が音楽にやることにやるうとするとは、その音楽の向こうに居る人に向かって“どうやったら届くか”というところを…それも世に出してみたいと分かれないことではあるんだけど…キチンと信じて誠実にやろうって。そうやって作ったアルバムなんです。

●キャプストはいつも誠実ですけどね。

永友：そうですね？

●うん、そう思いますよ（笑）。適当な感じが無く、常に「俺たちはこうするべきだ」というのを真剣に考えて、必死に汗かいて、苦労しながら見つけては進んでる。そういうところがすごく人間臭くていいと思います。

永友：いつも時間はかかっちゃうんですけどね。作りながらしなかなかなか見つからないところが毎回多くて。最初に「これだ!」と方向を見つけて突き進んで行くというよりは、必ず2回くらい挫折しない（笑）。

●そうすよね（笑）。しかも常に自ら環境を変えたり、自分で自分に新しい刺激を与えたりして。

永友：そうそう（笑）。そうしないとなかなか進め

ないんです。器用ではないんですけどね。そんな中でも、本当に今は手応えが大きいんです。

interview : Takeshi.Yamanaka
assistant : 中路 亜紀

4th Album 『音楽には希望がある』



ヤァ!ヤァ!ヤァ!レコード
AICL-1918
¥3,059 (税込)
NOW ON SALE

“ROCK IN JAPAN FES. 2008”

08/02 (土) 国営みち海浜公園

“Re : mix 2008”

08/30 (土) 名古屋ダイヤモンドホール&アポロシアター

“LIVE TOUR 2008 明日に向かって踊れ!”

09/19 (金) 福岡 DRUM SON
09/20 (土) 広島ナミキジャンクション
09/22 (月) 岡山ペーランド
09/26 (金) 仙台 M.A.C.A.NA
09/28 (日) 札幌 COLONY
10/03 (金) 名古屋アポロシアター
10/05 (日) 梅田 Shangri-La
10/12 (日) 恵比寿 LIQUIDROOM
<http://www.ctsr.jp/>

カラーページ連動 (P.82-83) アルバム『音楽には希望がある』発売記念 [負けたら全額自腹] 第2回 キャプテンストライダムゴチバトル 結果発表



全額自腹 永友聖也 注文金額：11,730円
永友：これで2連敗ですか…。本当に心の底から JUNGLE★LIFEなんて無くなればいいのと思えます。まあでも「フカヒレ」を注文することによって JUNGLE★LIFEのしみたれた話題が華やかになればいい”という攻めの気持ちで負けたので（笑）、後悔は無いです。後は JUNGLE★LIFE にどうやってリベンジするか、じっくり考えます。

- 1品目：生ビール 予想金額：500円 → 正解金額：550円
- 2品目：美林華飯店特製ソースかけ貝柱揚げ 予想金額：450円 → 正解金額：350円
- 3品目：華海老のチリソース炒め 予想金額：1,200円 → 正解金額：2,000円
- 4品目：蟹肉入りおこげ 予想金額：1,800円 → 正解金額：2,000円
- 5品目：美林華飯店特製フカヒレの姿煮 予想金額：3,500円 → 正解金額：5,500円
- 6品目：小籠包 予想金額：900円 → 正解金額：950円
- 7品目：杏仁豆腐 予想金額：700円 → 正解金額：380円

まさかの永友、前回に引き続き2連敗!
前回の教訓を活かしても見事にモロ裏目!!
自腹金額は33,090円!!



2位 梅田啓介

注文金額：10,780円
梅田：今日はまったくわかんなかったです。前回の寿司が、普段魚屋とか行くの好きだし、なんとなく予想はしたんです。でも中華は難しい。

- 1品目：生ビール 予想金額：600円 → 正解金額：550円
- 2品目：特製チャーシュー 予想金額：600円 → 正解金額：1,800円
- 3品目：生ビール 予想金額：600円 → 正解金額：550円
- 4品目：コーンスープ 予想金額：900円 → 正解金額：1,000円
- 5品目：美林華飯店特製黒酢豚 予想金額：1,200円 → 正解金額：1,800円
- 6品目：生ビール 予想金額：600円 → 正解金額：550円
- 7品目：白米のクリーム煮込み 予想金額：900円 → 正解金額：1,500円
- 8品目：小籠包 予想金額：600円 → 正解金額：950円
- 9品目：生ビール 予想金額：600円 → 正解金額：550円
- 10品目：生ビール 予想金額：600円 → 正解金額：550円
- 11品目：マンゴーパロア 予想金額：500円 → 正解金額：500円



1位 菊住守代司

注文金額：10,580円
菊住：結果オーライです。“中庸をとる”という、極めて日本人的な勝ち方でしたかね。

- 1品目：瓶ビール 予想金額：800円 → 正解金額：650円
- 2品目：湯葉とキュウリとクラゲの和える前菜 予想金額：800円 → 1,380円
- 3品目：マーボトウフ 予想金額：1,000円 → 正解金額：1,000円
- 4品目：生ビール 予想金額：500円 → 正解金額：550円
- 5品目：華海老のXO醬ソース炒め 予想金額：1,450円 → 正解金額：2,600円
- 6品目：あわびのしょうゆ煮込み 予想金額：4,400円 → 正解金額：2,800円
- 7品目：生ビール 予想金額：500円 → 正解金額：550円
- 8品目：生ビール 予想金額：500円 → 正解金額：550円

第2回ゴチバトルの様子は P.82-83 をチェック!! →

第2回 キャプテンストライダム **ゴチバトル** 負けたら全額自腹

【今回は麻布で中華… 設定金額は 10,000 円】

キャプテンストライダム（キャプスト）の3人が2007年3月号の本誌にて実施した幻の企画“ゴチバトル”の第2弾。麻布にある中華料理店「美林華飯店」にて、料金が書かれていないメニュー（全99品）から1品ずつ注文し、食した後に金額を予想。合計金額が10,000円に最も近い人が勝者で、最も遠い人が3人分の料理代金を全額自腹で支払うというシンプルかつスペシャル（かつ音楽雑誌では有り得ない）企画。前回に引き続き、もちろんアーティストであるうんちくは負けは負け。絶対に全額支払って頂きます！

取材協力：美林華飯店（東京都港区麻布台 3-4-10-2F TEL：03-3583-6568）


設定金額は 1人 10,000 円！ 今回も事前に何の連絡も無く召集されたキャプストの3人、熱い戦いの幕は切って落とされた！

Vo./G. 永友聖也




企画のことも考えて写真映える料理を注文するなど繊細かつ大胆な男に成長した中華アーティスト

Ba./Cho. 梅田啓介



中華の王道（フカヒレ・あわび・北京ダック）はあまり好きではありませんので観みません

Dr./Cho. 菊住守代司



これは料理との戦いではない！メンバーとの戦いだ！遂に牙を剥いた孤高の中華ドラマー

本日の意気込み
永友：意気込みも何も、いきなり取材の最後に連れて来られて、「ゴチバトルの意気込みは？」って訊かれてもあるわけ無いでしょ！僕らアルバム出したんですよ！なんですかこの体たらくは！

本日の意気込み
梅田：まさかまたゴチバトルをやるとは思ってたんですけど。「さすがに企画のカブセは無いらう」と。まだまだ俺も甘かったです。

本日の意気込み
菊住：前回は家に帰ったあと、なんか腹が減って飯を食ったんですよ。緊張してたのか、全然食べた感じがしなかったの、今回はしっかり食べようかなと思います。

戦前寸評：前回は屈辱の全額自腹（25,800円）。回らない寿司屋という雰囲気にもまれたのか、設定金額が10,000円なのに7,300円分しか注文しなかった勝負弱さをこの1年で克服出来たかがポイント。今回は汚名返上となるか？

戦前寸評：前回はあと1杯生ビールを飲めればタリ賞（Wii プレゼント）という実力の持ち主。酒が進むと食材に関するうんちくが飛び出すキャプスト界きっての理論派（但しうんちく系）でもある。シラフでうんちくはよく飛び出す。


戦前寸評：すべての予想に迷いがなく根拠もないが、前回は2位と健闘した。今回は開始早々「永友と梅田の中庸をとります！」と豪語し、他者と同じ注文じゃないと意味がない「中庸作戦」を実践。これが作戦と呼べるのか？

1 品目：生ビール
予想金額：500 円



永友：グラスがアサヒビールの業者から支給されるようなグラスで、そもそもお店自体が割と安いんじゃないかと読んで、500円。

1 品目：生ビール
予想金額：600 円



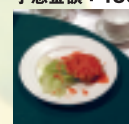
梅田：ジョッキかなと思ったんだけど、意外とグラスで出てきたので。この量だとパーとかで飲むと650円くらいすると思うんですけど、ご飯が出るお店だと600円かな。

1 品目：瓶ビール
予想金額：800 円



菊住：うーん、なんとなく800円。まあでも、なんとなく感覚がそう言ってます。

2 品目：特製ソースか貝柱揚げ
予想金額：450 円



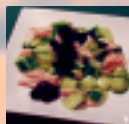
永友：メニューを見ると、このお店は“特製ソース”をこの料理が多いんですよ。だからまずお店の本質を探ろうと思って。…このソースはちょっとピリ辛のオーロラソースですね。バクリ…うむ、これはたぶん安いです。美味しいですけど。

2 品目：特製チャーシュー
予想金額：600 円



梅田：リーズナブルな感じがするので600円。割と庶民っぽい感じがする。お皿も普通な感じがするし、1,000円はしないかな。

2 品目：湯葉とキュウリとキクラゲの和える前菜
予想金額：800 円




菊住：最初1,000円だと思ってたんですけど、実際に料理が来てみて、800円にしました。前菜ってなんかリーズナブルな感じだし、お皿も梅田のチャーシューと同じだし。今日は意外と800円均一でイケるかなと思います。

3 品目：車海老のチリソース炒め
予想金額：1,200 円



永友：ちなみに王将でエビチリを頼んだら580円とかそんなもんなんです。うーん…王将の方が美味しい（笑）。だけど、この量を考えて1,000円を超えるんじゃないかな。というわけで1,200円ということで。相場って感じじゃないですか。

3 品目：生ビール
予想金額：600 円



梅田：寿司と違って、やっぱり中華だと料理が来るスピードが落ちるので、ここはビールですね。ビールはどう間違えても1杯当たりの差額は50～100円くらいだと思う。


3 品目：マーボートウフ
予想金額：1,000 円



菊住：うう～ん、マーボートウフ！美味いから1,000円！それに、梅田・永友の金額の間をとって1,000円！（永友が注文した車海老のチリソース炒め）海老より豆腐の方が安いかなと思って、パニーヤンのマーボートウフは380円だし。

「僕は王将がこの世でいちばん美味しい中華だという認識です」（永友）

4 品目：蟹肉入りおこげ
予想金額：1,800 円



永友：サクサクです。これはね1,800円。量的に考えたらもうちょっとするかとも思ったんですけど、ちょっと安めに予想しました。…それよりも何よりも、僕らが注文した料理をチョイチョイつまみ食いしているJUNGLE★LIFEとウチのスタッフ2人は何なんですか？僕らは負けたら全額自腹なのに…損してるのはいくらなんですか？この企画なんかおかしくないですか？

「今日は他のメンバーを惑わせるために、嘘のうんちくを語ってみました」（梅田）

5 品目：特製黒酢豚
予想金額：1,200 円



梅田：美味しい！モスバーガーのロースカツバーガーの味に似てる。やべえ！ビールが飲みたい！ビール注文していいですか？美味しい！予想金額は1,200円。これは食べた方がいいですね。ソースがかかったトンカツのような味がするんですけど、量を分析して、ローストンカツの値段と比べて考えたんです。だからそれなりのトンカツと同じくらいの値段と予想しました。

「あわびなのかキノコなのか、もうよくわからなくなってきた」（菊住）

4 品目：生ビール
予想金額：550 円




菊住：2人の予想金額の中間にしました。

5 品目：車海老の XO 醤ソース炒め
予想金額：1,450 円




菊住：ちょいピリ辛ですね。でも俺は XO 醤を今まで食べたことが無いので、どの味が XO 醤なのかわからないんです。予想金額は…うーんと…うーんと…1,450円です！永友の車海老のチリソース炒めよりは高いんじゃないかと。かつ生ビールを550円と予想したので、予想金額合計の端数を切り上げたかったというでもあります。

5 品目：特製フカヒレの姿煮
予想金額：3,500 円



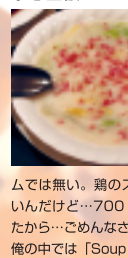
永友：ああ～、かなり大きいですね。これは王将には無いね。パニーヤンにも無い。というか、僕がフカヒレ食べ始めたら急にパシャパシャ写真撮られてるんですけど…。というか、雑誌のことを考えて僕はフカヒレを頼んだんですよ。フカヒレなんて今までJUNGLE★LIFEに載ったことないでしょ？だから雑誌のことを考えて頼んだのが…間違っていた。すごく分厚いんですよ。今まで友人の結婚式に出たときに食べたフカヒレよりも全然でかいです。…とは言っても、3,500円。さっき、ヒントとして「いちばん高いメニューは12,000円だ」と言われたんですが、このフカヒレを12,000円にしてしまうと自ら負けを認めてしまうことになるので。

6 品目：生ビール
予想金額：600 円




梅田：美味しい！ハフッハフッ…ゴクゴク…美味しい！黒酢豚とさきく合う！かなり幸せですよ！

7 品目：白菜のクリーム煮込み
予想金額：900 円



梅田：上に乗ってるのは何だろう？うーん、これは美味しい。でも絶対高くはないけど。あ、この上に乗ってるモノはハムですね。でも金華ハムでは無い。鶏のスープが効いててすごく美味しいんだけど…700円。でもビールを600円にしたから…ごめんなさい、900円にします。これは、俺の中では「Soup Stock Tokyo」を超えてる。

6 品目：あわびのしょうゆ煮込み
予想金額：4,400 円



菊住：美味しいですね。超美味しい。結構量はあるんですけど、あわびを1個丸ごと使っていないと思うんです。要するに姿煮ほどではない。あわびも柔らかくて。というか、いかにせんこういうモノは食べたことが無いので、値段の想像がつかないんですよ。美味しいなあ。うーんと…うーんと…4,400円！こうすると合計金額のキリが良くなるということがひとつと、ヒントではいちばん高いメニューは12,000円ということですが、メニューには「あわびの姿煮」というのもあるので、そっちの方が高いかな。

6 品目：小籠包
予想金額：900 円



永友：1個150円が6個で、900円ということ。

8 品目：小籠包
予想金額：600 円



梅田：美味しい！美味しいわコレ！実は小籠包が好きで、他でもよく食うんですけど、それと比べると…600円です。

ここまでの合計予想金額 … 8,350 円
ラストオーダー：杏仁豆腐
予想金額：700 円

ここまでの合計予想金額 … 6,000 円
ラストオーダー：生ビール×2、マンガーバロア
予想金額：1,700 円

ここまでの合計予想金額 … 9,000 円
ラストオーダー：生ビール×2
予想金額：1,000 円

永友：終わった今の感想？そんなことより、僕たちが一生懸命この企画に乗って頑張ってるのに、JUNGLE★LIFEやウチのスタッフはもう料理に飽きて、いっぱい残ってるんですよ。これがもう許せない！いつか復活してやる！

梅田：ここまでの自分の予想金額合計は7,700円で設定金額に足りてないんですけど、もしこれで10,000円を超えてたら…もうわかんない。俺の価値基準だと7,700円のハズなんです。10,000円を超えてたら？もっと勉強します。

菊住：なんか今日はスタッフの視線が俺に集まってるような気がしてたまんですよ。実はすごく安いんじゃないかと思ってるんですけど、俺の勘だとこれですジャスト10,000円なんです。だから自分の勘と、麻布という場所の値段設定を信じます。